

研修報告書 No.24

県外病院初期臨床研修医

研修先： 土佐市立土佐市民病院

2020年1月6日から約一か月間、土佐市民病院を中心に3つの近隣医療機関と特別養護老人ホームで研修を行わせていただいたので、報告させていただきます。

土佐市民病院は人口約2万5千人の土佐市にあり、市の中核病院として機能しています。また、高知県は高齢化が進んでおり、土佐市も高齢化が進む市の一つです。主な研修項目としては、内科外来、病棟管理、救急対応、人間ドックの結果説明、エコー検査の見学などです。

外来に関しては、平日午前の初診患者を担当させていただきました。主に高齢者を問診することが多く、発熱や腹痛などの common disease に対する鑑別をすることが多くありました。各種検査を上級医に相談しながら鑑別を進め、入院、帰宅、投薬などの決定に至るまでの考え方を学ぶことができました。研修している病院では主に病棟管理の仕事であり、初診外来は経験がなく、非常に実のある経験となりました。

人間ドックの結果説明では、採血、尿検査、呼吸機能検査などの結果説明をさせていただきました。各種結果をわかりやすく説明し、患者それぞれに対して食事療法や運動療法など健康に対する意識付けをどう説明するのが良いのか、悪戦苦闘しながらも学ぶことができました。

エコー検査では、腹部エコーと心エコーについて見学させていただきました。心エコーでは見学だけでなく、指導医のもとで患者さんに実際にプローブをあてさせてもらい勉強することができました。

近隣病院は、1病院と2箇所のクリニックで見学させていただき、主に外来の見学と訪問診療に同行させていただきました。地域のかかりつけの病院としての役割とグループホーム、障害者施設や終末期患者への訪問診療の大切さを改めて学ぶことができました。さらに、先生と患者の信頼関係は厚く患者から親しまれる存在であり、医者と患者としての関係だけでなく、地域のかかりつけの病院ならではの関係性を築いているように感じました。

また、特別養護老人ホームでも見学させていただきました。ここでは主に看護師、理学療法士、言語聴覚士、介護福祉士、ケアマネージャーなど多種の職員が一丸となり、仕事されていました。特に興味深かったのは、介護における機械の活躍です。職業病である腰痛に対して、機械を導入することで一人でも一切力を使うことなく移乗することが可能であるということ、それにより腰痛を防ぐだけでなく、力がない方でも介護することができます。しかし、この機械の導入は全国の病院などでは普及しておらず、限られた特別養護老人ホームなどで導入されている程度であり、様々な施設で導入してほしいと施設の方がおっしゃ

っていたのが印象的でした。

高知県の生活は、高校まで高知県で暮らしていたのもあり、方言や景色すべてが懐かしく、非常に充実した一か月でした。先生方が歓迎会や飲み会に連れて行ってくださり、高知県の地元の魚を食し、改めて高知の魚のおいしさを痛感しました。また、先生方や医療関係者みなさんが非常に温かく、慣れない環境での生活は大変だと思っていたのですが、充実した日々を送ることができました。

高知県の地域医療研修を選択し、心から良かったと思います。本当にありがとうございました。